

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 3 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 141-0031

所在地 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ714号

評価機関名 特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー

認証評価機関番号 機構 02 — 004
電話番号 03-3494-9033
代表者氏名 新津 ふみ子

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鳥海 房枝	福祉	H0301065
	②	北村 とし子	福祉	H0502037
	③	田中 稔	経営	H1401002
	④	伊藤 路香	福祉	H1601046
	⑤	岩野 一子	福祉	H1901099
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	キッズタウンにしおおい			
事業所連絡先	〒	140-0015		
	所在地	東京都品川区西大井2丁目5番21号 ヘルスケアタウンにしおおい		
	Tel	03-5718-1332		
事業所代表者氏名	園長 新保 美幸			
契約日	2024 年 6 月 24 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 17 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 15 日			
自己評価結果報告日	2024 年 10 月 17 日			
訪問調査日	2024 年 10 月 21 日			
評価合議日	2024 年 11 月 14 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・評価担当者には、保育経験のある有資格者と保育所の評価経験者を充てました。 ・訪問調査は2日間をかけて行い、経営層の考え方を十分聞くように努めました。 ・アンケート調査票の用紙は、回答者が意見等を書きやすいように、コメント記載をするスペースを広く設けました。 ・一連の評価過程で事業所が気づきを得て改善し、それに継続性が見込めるものについては評点や講評に反映させました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 27 日

事業者代表者氏名 新保 美幸 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 地域に開かれた地域に愛される地域に信頼される保育園であること 2) 一人ひとりの発達と個性を大切にし、生きる根っこを育てる保育の実践 3) 子どもの人権・人格を尊重した不適切のない保育活動の実践 4) 複合施設のよさを生かした多世代交流 5) 互いが恵み合い、助け合う互恵互助の精神
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 ・保育士としてのスキルだけでなく、豊かな感性や思いやりを持っていること ・先を見据えることができ、子どもたちを楽しませることはもちろんであるが、自身も仕事に対してやりがいを持って生き生きとしていること ・与えられた役割を最後まで責任を持って果たし、協調性を持って周りとの協力して業務を進めていくことができること (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・子どもの生きる力の基礎を培う、乳幼児期の大切な用語と教育の場であるという意識や大切な子どもをお預かりしているのだという責任感を持ち続けてほしい ・保護者との信頼関係を築き、子育て世代を多方面から支援することのできる職員であってほしい

調査対象

◆調査対象

0歳児12名、1歳児13名、2歳児23名、3歳児21名、4歳児23名、5歳児23名の合計115名の利用時点の全保護者94名を対象に調査を実施した

調査方法

◆アンケート方式

全保護者94名に対して、事業所を通じてアンケート調査票と返信用封筒を配布し、評価機関に直接郵送してもらう方法でアンケート調査票を回収した

利用者総数

115

利用者家族総数(世帯)

94

共通評価項目による調査対象者数

94

共通評価項目による調査の有効回答者数

57

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

60.6

利用者調査全体のコメント

- ◆総合的満足度の回答のうち、「大変満足」33名(57.9%)、「満足」21名(36.8%)を合わせた回答率は94.7%でした。なお、その他の回答は「どちらともいえない」2名(3.5%)、「無回答」1名(1.8%)という結果でした。
- ◆日頃から事業所に対して感じている意見・要望は32名(56.1%)から寄せられています。その主な内容は「保育そのものについては子どもの気持ちに寄り添った対応で信頼できる」が多くを占めていました。なお、連絡帳が送信されなかった、活動記録と連絡帳のコメントが重複していることなどについて改善の要望が寄せられていました。
- ◆質問項目別では「はい」の肯定的回答率が70.0%以上の項目が17項目中15項目を占めています。一方、肯定的回答率が60.0%以下は2項目でした。そのうち、問12の「子ども同士のトラブルへの対応」については「子どもが乳児なので、子ども同士でトラブルを起こすことはないので、乳児の保護者への質問として適当なのか」というコメントがありました。
- ◆今回の調査結果を、今後の改善に活用されることを期待します。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	2	0	0
「はい」の肯定的回答率は96.5%で、そのコメントは「子どもが保育園で体験したことを嬉しそうに話してくれる。家庭内保育だけの時より発達にプラスのことが多い印象を持っている。保育園に通園し始めてからできるようになったことが多い。職員がほめてくれるためやる気になっている。保護者会で話す職員の様子から、子どもの発達をよく考えていることが伝わる。自宅ではできない工夫した活動を保育園は取り入れてくれている」などです。「どちらともいえない」のコメントはありません。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	55	2	0	0
「はい」の肯定的回答率は96.5%で、そのコメントは「自宅では体験できない活動や遊び方が体験でき有難い限り、ゆったりのびのびと好きなことを体験できる日や製作などの取り組みを設定するなど、バランスよく様々な経験ができていると思う。玩具や遊具などは保育園にしかないものがある」です。「どちらともいえない」のコメントは「季節が関係していると思うが、同じ活動を翌々日に行うなどに多様な活動が多い」です。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	46	10	1	0
「はい」の肯定的回答率は80.7%で、そのコメントは「子供はおいしく食べているようである。毎日アプリで食事の内容を送ってもらえるので安心」などです。「どちらともいえない」のコメントは「栄養のバランスが取れたメニューではあるが量の調整を工夫してほしい。写真のメニューなので使われている食材までは確認しづらい。判断できる材料が少ない」などです。「いいえ」のコメントは「以前試食したことがあるが味付けが薄いと感じた、2歳児の後半からはもう少し味があったほうが食べる楽しみがあると思う」です。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	50	4	3	0
「はい」の肯定的回答率は87.7%で、そのコメントは「夏場は暑さのためホールでのサーキットや水遊びを取り入れてくれている。戸外で遊べるこの園に入園できてよかった。園庭や隣接する施設で遊べるなど、周辺の保育園と比べるとのびのび活動ができている」などです。「どちらともいえない」のコメントは「戸外遊びが園庭のみ。遠足が年1回なので、クラスの友達と戸外で一緒に食事する機会などが少ない」です。「いいえ」のコメントは「散歩に行く頻度が少なく、戸外も中庭ばかりである。いつも室内で活動していることが多い」です。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	42	8	0	7
「はい」の肯定的回答率は73.7%で、そのコメントは「園長をはじめとした職員は、急な残業出迎えの時間が遅れるなどに気持ちよく対応してくれるので助かっている。電話連絡すると焦らずに気を付けて来てくださるなどの温かい言葉をかけてくれる。利用時間の変更は事前連絡が必要だが嫌な顔をせず受け入れてくれる。体調不良の場合にも柔軟に対応してくれる」などです。「どちらともいえない」のコメントは「その体験がないのでこの回答を選んだ。柔軟に対応してくれるが伝えにくい時もある」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	41	14	2	0
「はい」の肯定的回答率は71.9%で、コメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「正門の扉が閉まりにくく、修理対応のお知らせがあっても改善されない、また各扉のストッパーがある場合とない場合がある。子供が転倒した際のクッションとして敷かれているマット自体が転倒の原因になっている。玄関の電子キーの暗証番号はもう少し頻繁に変更したほうがよい」です。「いいえ」のコメントは「けがの報告がなく、聞いてもわからないということが何度かあった。迎えが多い時間帯は不審者が自由に入れるのではないと思う」です。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	6	2	0
「はい」の肯定的回答率は86.0%で、そのコメントは「事前に連絡があり日程も余裕があるのでで難く、その内容もわかりやすい」です。「どちらともいえない」のコメントは「平日や午前中の行事が多く、日程の調整が大変な場合があり、参加人数枠も増やしてほしい。開催日の2か月以上前に知らせてほしい」です。「いいえ」のコメントは「行事の開催時間を伝えてくるのが遅く、仕事の調整が大変」です。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	44	13	0	0
「はい」の肯定的回答率は77.2%で、そのコメントは「保育園にいるときの子どもの状況を伝えてくれたり、小まめに声をかけてくれるなど、職員が子どもに寄り添っていることがわかり安心」「普段から愛情をもって子どもに寄り添っていることが感じ取れるので信頼している」「疑問に思うことや悩んでいることを連絡帳に書いたり、迎えに行ったときに相談すると丁寧にに対応してくれる」などです。「どちらともいえない」のコメントは「大規模な保育園なので、個別的な相談はしにくい」です。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	54	2	1	0
「はい」の肯定的回答率は94.7%で、そのコメントは「掃除している職員の姿や、掃除ロボットなどをいつも見ているので、清潔は保たれていると思う」です。「どちらとも言えない」のコメントは「建物が古いので仕方ないと思うところもあるが、園庭が外から見えてしまうのが気になり、心配でもある。床の清掃は毎日していないのかと思う時がある」です。「いいえ」のコメントはありません。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	47	10	0	0
「はい」の肯定的回答率は82.5%でコメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「業務連絡の会話中に話しかけている子供の声を無視していることがあった、せめてもう少し待ってねなどの言葉を子どもにかけてほしい」「概ね適切であると思えるが、男性職員が髪を結んでいるのが気になる」「カラーコンタクトを使っている職員の見た目が怖い」「廊下を走っている職員を見かけることがある」「職員によって異なる」です。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	7	1	1
「はい」の肯定的回答率は84. 2%で、そのコメントは「子どもが発熱したときも、看護師がぎりぎりまで様子を見てくれる」「体調不良時には周囲の状況なども含めて丁寧に経過を知らせてもらっている、けがについても把握できていることを丁寧に知らせてくれる」です。「どちらともいえない」のコメントは「体調のことで世話になったことがないのでどちらともいえないを選択した」などです。「いいえ」のコメントはありません。「無回答・非該当」のコメントは「けがをしていても元気でしたと送り出されることがたびたびある」です。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	34	10	0	13
「はい」の肯定的回答率は59. 6%で、そのコメントは「子どものメンタル面のほか、周辺のことやクラスの様子も併せて教えてくれて、子ども同士の会話や家庭での状況にも対応してくれている」「丁寧に対応してくれるが一部の大変な子どもにはばかり職員の手が取られている様子で、ほったらかしになっている感じがする」「クラスごとの保育者をもっと増やしてほしい」です。「どちらともいえない」のコメントは「トラブルが起きる年齢になっていない」です。「無回答・非該当」のコメントは「乳児期の子供の親に適切な質問なのか疑問である」です。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	45	10	2	0
「はい」の肯定的回答率は78. 9%で、そのコメントは「月齢が低く、言葉が十分に話せない子どもが自分の意思を伝えようとしているところを、職員が汲み取りながら接してくれていると思う」「子どもが職員のことをとても信頼し、大好きであることが伝わってくる」です。「どちらともいえない」「いいえ」ともにコメントはありません。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	47	5	1	4
「はい」の肯定的回答率は82. 5%でコメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「職員が保護者のいる前で、子どもや他の人の悪口を言っていたことがある。そのとき、声が聞こえて職員の方を見ると、隣の職員が人差し指を口に当てたポーズをとっていたので、明らかに自分の悪口を言っているようだった」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	46	8	3	0
「はい」の肯定的回答率は80. 7%で、そのコメントは「保育園向けのICTシステムのアプリケーションを使って活動日誌が毎日届けられるので、円の活動内容が把握しやすい」です。「どちらともいえない」のコメントは「アプリケーションを通じて日々の保育内容を共有してくれるのは有難い。迎えに行ったときも当日のことを具体的に報告してもらえると、さらに活動状況がわかるので安心できるように思う」「アプリケーションで写真抜きの連絡が毎日来るが、写真と説明が合っていないことがある」です。「いいえ」のコメントはありません。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	44	7	0	6
「はい」の肯定的回答率は77. 2%で、そのコメントは「職員に要望を伝えると真摯に対応してくれる」です。「どちらともいえない」のコメントは「以前、連絡帳の送信がなかったことなどがあったが、現在はそれも解消し、安心できている」「不明な点を質問したのに確認してから伝えるという職員の返事で、回答してもらえないことがここ半年で3回ある」「対応してくれることもあるが、確認するだけでその後の対応がない場合がある」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	26	6	9	16
「はい」の肯定的回答率は45. 6%で、そのコメントは「保護者会の際に説明があった」です。「どちらともいえない」のコメントは「役所の窓口などを含めて知らなかった」「保育園で使用しているアプリケーションに相談先やリストを掲載してくれるとよいかもしれない」です。「いいえ」のコメントは「職員以外にまで相談するような状況ではなく、伝えられなかったのかもしれない」「わからない。知らないと思う。説明はなかったと思う」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリー1の講評		
	法人の理念や保育理念等を掲げて共有に努めているが非常勤職員への周知は十分ではない 法人の理念と基本方針を定め、職員に求める姿勢なども含めて「互恵互助」と称する小冊子にまとめ、非常勤職員を含む全職員に配布している。さらに、法人内の保育園共通の保育理念、保育方針、保育目標も掲げている。当園では法人の理念、基本方針、年度スローガン、不適切保育防止スローガンを玄関に掲示している。互恵互助は、昼礼時にその日の担当が特定のページを読み上げて共有に努めている。なお、非常勤職員に対しては理念等を説明する機会は特になく、必要なことは適宜伝えている。保護者には全体懇談会で園長が理念と基本方針を説明している。		
	園長は着任2年目を迎え、諸会議への参加等を通じてリーダーシップの発揮に努めている 園長級職員の責務は就業規則および人事考課制度の「役割資格基準」で定められている。園長は法人内の他園からの異動で就任して2年目を迎えている。園内では園長の役割と責任について特に明示したものはないが、園長は自らを園の最終決定を行う責任と役割を担う者として職員や保護者の立場を公平に考えることを重要としている。必要な事項は昼礼や諸会議の参加、人事考課面接の機会等に伝え、また、保護者には保護者会や年度初めの全体会議で園の方向性を示している。		
	意思決定の体制や手順は明確だが、園内の情報伝達が円滑でなく、課題となっている 法人では毎月、法人連絡会議(園長・副園長が参加)や南東京エリア戦略会議(園長が参加)を開催し、重要案件は園長が昼礼で職員に周知している。当園では職員会議に代えて昼礼を周知の重要な機会と位置付けている。昼礼には各クラスから代表者が参加し、その職員がクラス内に伝達するルールである。しかし、情報伝達が円滑でなく、課題となっている。また、行事のお知らせや園内の感染症情報等の保護者に対する重要情報は業務システムにアップした園だよりや保健だよりで知らせている。電子化を進め、紙によるものは行事の出欠席連絡に限定している。		

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
利用者・職員の意向、地域のニーズ、福祉の動向は様々な取組みを通じて把握している 利用者の意向は、3年ごとの第三者評価の受審時、法人による利用者満足度調査、行事後のアンケートで把握している。職員の意向は、人事考課面接(週30時間勤務の非常勤職員を含む)で把握している。地域のニーズは、「ケンケン広場」(幼稚園や保育園を利用していない親子の遊び場)の取組みを通じて把握している。また、苦情解決委員会を当園のある「ヘルスケアタウンにしおおい」で設置して地域の方の声を聞いている。福祉の動向は、行政、区内の私立園長会、社会福祉協議会等から把握し、これらの情報は必要に応じて園長と副園長で協議している。 法人の中期目標に沿って計画(年度目標書式)を策定するとともに事業計画を定めている 法人は第6次中期目標を定め、その枠組みに基づいて法人全体、各エリア、各事業所が年度ごとに「年度目標書式」と称する計画を策定し、統一的な目標管理を行う仕組みである。また、それとは別に法人内の保育園でほぼ統一した様式の「事業計画書」を作成し、区と法人本部に提出しており、職員はそれを当園の事業計画と認識している。それらはどちらも園長が総合施設長と相談しながら作成している。予算については、ケアヘルスタウンにしおおいの事務長が立案し、園長が確認している。特に高額な費用が想定される場合は法人本部との協議を行っている。 役割分担表などで職員の役割を定め、昼礼でその都度に情報共有して事業を進めている 法人では、中期目標に基づいた年度ごとの事業について、目標を達成するために「年度目標書式」に「部門としての活動」、「活動指標・目標値」などの項目を設け、それを各事業所、各エリア、法人全体で集約するしくみを構築している。また、当園では行事の役割分担表などによって年間の職員の役割を定め、事業の進捗は昼礼でその都度に担当が報告して共有している。しかし、進捗管理はベテラン職員の経験に負っている側面が大きく、当園の事業活動に関する計画策定、その進捗管理、事後の検証、に関する組織的な取組みは十分とは言えない。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	法人では倫理規程等を定め、当園では法人独自のチェックリストで自己点検している 法人としてコンプライアンス規程や倫理規程を定め、不適切保育ゼロ宣言を掲げ、小冊子「互恵互助」で求める職員像を明示している。また、新人研修で個人情報保護法やプライバシー保護について指導している。当園では「こうほうえん保育・教育ベーシックガイド」に基づく保育士チェックリストを活用している。同チェックリストは「新人」「2～5年目」「6～10年目」の区分ごとに「法人・園の理解」「職務姿勢」「保育姿勢」などの項目で構成されている。なお同チェックリストの結果の把握は課題となっており、また非常勤職員は対象となっていない。 苦情解決の体制を整備し、苦情があれば園長が対応して昼礼で報告・共有している 苦情解決のしくみとして苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員を設置し、外部の連絡先とともに重要事項説明書に記載している。これらは全体懇談会で保護者に説明している。保護者からの苦情は園長に寄せられる場合が多く、園長が職員から聞き取って必要に応じて指導する。苦情は昼礼で報告され、苦情報告書を回覧し、第三者委員会に報告している。一方、虐待防止の取組みの一環として、今年度からクラス会議で不適切な場面の有無を互いに確認する取組みを行っている。乳児会議や幼児会議でも振り返り、職員が講師となる園内研修も実施している。 昨年度からSNSによる情報発信や誰でも食堂による地域貢献活動に取り組んでいる 法人によるホームページに加え、昨年度からSNSを始めて園内の様子を発信している。広報誌は「お互いさま」(法人:四半期)、「西大井スタイル」(毎月)に当園のページが割り当てられているが園独自では配布していない。ボランティアについては、夏季に区ボランティアセンターによる体験ボランティア(中高生)に協力している。昨年度から「誰でも食堂」(月1回)を開き、小学生以上に食事を提供している。また、地域の方が来所して意見交換する「ふれあいの橋の会」(法人の取組み)や、地域の清掃活動、防災訓練、祭りなどに参加している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評		
安全管理に関するマニュアルやBCPなどを定めているものの職員への周知が課題である 当園では、法人のISO基準に基づき「こうほうえん安全管理マニュアル」「防災安全対応マニュアル」「事故対応マニュアル」などを整備しており、保育園専用には「事故対応マニュアル」「入退園対応手順」「施錠開錠手順」も整備している。また、一昨年度に作成したBCP(事業継続計画)も職員が確認するよう指示し、事務室内に配架している。しかし、職員がISOで定められた当園の施錠開錠手順や事故対応マニュアル、BCPなどを改めて確認する機会や積極的な周知の取り組みは行っておらず、職員への安全計画を含めた周知が課題となっている。 安全計画に基づく避難訓練避難訓練や不審者対応訓練、熱中症対策等に取り組んでいる 安全計画に基づき、地震・火災・津波を想定した毎月の避難訓練避難訓練や初期消火訓練、交通安全教室、不審者対応を計画的に実施し、園内の安全管理を徹底するための取り組みを継続している。また、安全チェックリストによる定期的な点検を実施し、熱中症対策のために園庭の2か所にオーニング(日よけ)を設置している。さらに、警察署による交通安全教室を通じて交通ルールの意識を高め、不審者対応訓練では合言葉の周知、緊急時の役割分担、さすまた訓練を実施している。嘔吐処理については、環境安全委員会の職員が園内研修を実施している。 職員ごとにパスワードを設定し、児童票は施錠保管するなど、情報管理に努めている 文書は廃棄年限を明示したうえで保管しているが、廃棄が課題となっている。法人が管理するグループウェアで職員ごとにパスワードを設定してアクセス制限し、電子情報はパソコンの共有フォルダーに保存している。児童票は施錠可能なキャビネットに保管し、毎朝夕に開錠している。会議の記録は電子化を目指して検討中である。個人情報保護については利用目的の明示や開示請求の方法を定め、情報開示の可能性のあることを職員に説明している。利用者とは個人情報に関する承諾書を入園時に取り交わしているが、情報開示に関しては特段に周知していない。		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇●●)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー5の講評
	職員採用について東京事業本部と当園で役割分担しているが人材確保は厳しい状況にある 新卒採用は東京事業本部で、中途採用は当園で採否の方針を決定している。実習生の就職希望がある場合は当園で対応が可能である。職員の配置や異動は園内で行い、クラス内の配置は経験年数、相性、希望を考慮して決定している。年度末の退職が見込まれる場合は東京本部が新規採用の希望を確認し、退職する職員の要望も考慮している。非常勤職員の補充は総合施設長に相談のうえ決めている。法人の方針により派遣会社は利用していない。現状は紹介事業者でも人材確保は難しく、今年度は年度途中の退職に対し採用できたが、通常は厳しい状況が続いている。 園内研修では常勤職員を中心に嘔吐研修、虐待防止、救急救命等を実施している キャリアパスについては、法人が「職群」「資格等級」に基づく役割資格等級基準を設定し、人事考課制度を通じて職員のキャリアビジョンと目標を明確にし、考課面接で進捗管理と評価を行っている。保育士に対しては法人の階層別研修とキャリアアップ研修を積極的に受講させ、処遇改善に反映させている。研修計画は法人、エリア、園内研修、外部研修で構成し、園内では必須の研修を中心として、嘔吐研修、虐待防止、救急救命、アレルギー研修を実施している。なお、園内研修を行事終了後に実施することが多いため、非常勤職員を参加させることが難しい。 エルダー制度、保育士チェックリストの実施などで一人ひとりの職員育成に努めている 一人ひとりの職員育成に向けて法人のエルダー制度がある。また、保育士チェックリストを全職員に実施した。研修報告は園長と副園長が確認し職員ごとにファイルしている。成果を共有する機会は設けていないが、令和6年12月14日の職員会議で報告した。人事考課面接時に個人別の「教育訓練計画記録」を共有するが、研修計画としての活用は十分でない。指導役の職員への支援として法人はエルダー研修やフォローアップ研修を行い、園長もアドバイスしている。育児時短や育児休暇取得者もあり職員自己評価では有給休暇が取りやすいとの声が複数ある。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
〔目標の設定と取り組み〕 2023(令和5)年4月に、乳児に欠員が生じたことを受け、園の取り組みをSNSで発信して園に対する理解を広げようと試みた。法人連絡会議で他の事業所での実践事例も参考に「SNSを活用して広範囲に園を知ってもらおう」という方針が決定した。当初からの計画ではなかったが、園長が当園の前に配属されていた保育園でSNS発信の経験があったことで、園長は取り組みやすいと考えた。園長が職員会議で提案し、職員から「おもしろそうで良いのでは」と賛同を得られ、保護者からはSNS掲載の承諾を得た。園長が担当して発信対象や内容、掲載の頻度などは特に決めず、面白そうな活動や日常の保育の様子を随時アップしていった。SNSの投稿回数は数十回に及び、フォロワー数も増加した。 〔取り組みの検証〕 取り組みを振り返る機会は設けなかったが、保護者からはSNSを見て入園先の第一希望に決めたとの声があり、園長は効果があったものと考えた。 〔検証結果の反映〕 取り組みの手応えを感じ、本年度にも継続して取り組むこととしたが、具体的な事業計画には盛り込まなかった。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 年度当初に、欠員という課題に即時的に対応したもののだが、フォロワー数が増え、保護者から入園の契機になったという声があることから成果につながったと思われる。また、担当した園長に同様の取組経験があったことも功を奏した要因の一つと考えられる。しかし、取組みを具体化させる段階で明文化した計画はなく、検証の機会も明確ではない。また、取組み自体は継続するとはいえ次年度への事業計画等に明示していないなど、PDCAサイクルによる事業展開という点では課題が残る。さらなる取組み強化を期待する。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

〔目標の設定と取り組み〕

令和5年度に入り、男性保育士の言葉かけが不適切ではないかという苦情が保護者から複数回寄せられたことを契機に対応に取り組んだ。

不適切な言動を早い段階で防ぐ必要があると考え、園内研修で不適切保育を年3回テーマに取り上げた。研修では東京都版のチェックリストを活用したり、副主任が中心になって実際の保育の場面と照らし合わせながら振り返りを行ったりして、職員が「こんなことも不適切なのか」と気づく機会を設けた。

〔取り組みの検証〕

研修の効果測定は行っていないものの、園長は園内に「言いやすい雰囲気」が生まれ、保育の質の向上を目指す職員の姿勢が見られるようになったと感じている。

〔検証結果の反映〕

事業計画に「不適切保育防止」に関する取組みを掲げ、引き続き園内研修や昼礼時の小冊子「互恵互助」の読み合わせに取り組むこととした。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保護者からの苦情を契機として保育の質の向上に向けて取り組んだものである。繰り返し研修を行い、また一方的な講義形式ではなく実際の保育場面を振り返るなど丁寧な取組みに努めている。しかし、取組みを検証する機会が明確ではない。また、取組みを継続するとはいえ次年度への事業計画等に明示していないなど、PDCAサイクルによる事業展開という点では課題が残る。さらなる取組み強化を期待する。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
ホームページ等で園の情報を分かりやすく伝えている 当園の情報は法人が運営管理するホームページ、リーフレット、併設する高齢者施設と協同発行の広報紙等で発信している。区の保育課に置き入園希望者等が自由に持ち出せるリーフレットは、保育方針・目標・園の特色とともに、一時保育事業、子育て支援広場について利用方法を分かりやすく掲載している。また、ホームページは重要事項説明書でもある「入園のしおり」を掲載し園の全体像が捉えやすいよう配慮している。なお、園生活の一端を伝えやすくを目的に園長を中心にSNSをはじめたところであり、フォロワー数が次第に伸びているという。 自治体をはじめ関係機関へ園の現状を伝えている 保護者向けに園の現状を毎月発信している「園だより」は、近隣の人々の目に留まるよう園の掲示板に貼り出している。また、広報紙は10件ほどの近隣住戸に挨拶とともに、配付し園への理解が得られるよう努めている。自治体へは定期的に在籍する子ども数を知らせており、区内の私立保育園、幼保連、法人運営の他園、卒園後に通学予定の小学校等と情報交換する機会を持っている。さらに課題を持つ保護者、子どもの支援に子ども家庭支援センターや医療機関等、連携し適切に情報交換している。 見学者へは園のしおりを用いるなど保育方針等を丁寧に説明している 園の見学希望者は、入園先を検討している保護者が圧倒的に多い。見学希望は先ず、電話で日時を打ち合わせをする。園では見学日を月に2回設けているが、見学希望者の就労状況等によっては柔軟に対応している。4月の入園を目指し秋以降、見学希望者は多く、園では見学対応日増を考慮している。見学対応は副園長の役割としており、子どもが活発に活動する午前中の見学を勧めている。案内は「園のしおり」を用いて保育方針をはじめ、園庭を中心とした活発な戸外活動の充実等、園の特長を説明しながら園舎を案内する。時には育児相談にも応じている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
個別面談で保護者より得た子どもの情報は園全体で共有している 入園時面接は、子どもの担当予定保育士を中心に、看護師、栄養士、嘱託医が面接シートに沿って保護者・子どもの様子を観察しながら実施している。面接は、事前に配付している「入園のしおり」(重要事項説明書)、保護者が記載する入園前の子どもの様子(年齢別の子どものあるべき姿)、食事や薬品の使用状況、緊急時の子どもの引き渡し方法等を丁寧に確認しながら進める。「入園のしおり」には、園生活に必要な基本的なルールが詳細に示されており全職員が内容を把握している。面接シートの記載内容は職員間で共有し、入園後の保育に生かしている。 入園前の個別面談で保護者の意向を確認している 面接時に「入園のしおり」をもとに保護者と保育内容等について確認し保護者の同意を得ている。保護者の保育に関わる意向は、面接シートに記載しており、面接後にも保護者の疑問に丁寧に対応し納得を得ている。保育開始直後の子どもの様子は、自治体からの「児童票」、保護者が記載する各書式、面接シートの情報をもとに入園初期の支援が開始される。園生活開始直後の保護者・子どもの不安・ストレス緩和にその状況により「なれ保育」を勧め、時には保護者とともに保育にあたる場合もある。 小学校生活にスムーズになじめるよう支援している サービスは小学校入学のための卒園、保護者の転勤等により止むを得ず転園し終了する。卒園児はスムーズに小学校生活になじめるよう、秋以降は午睡をやめ、また、近隣の小学校の行事、例えば運動会等、を見学する機会を設けている。園での子どもの様子は自治体が決めている様式「児童要録」、さらに配慮を要する子どもの場合は保護者の要請等より「就学支援シート」を作成し、小学校との連携・継続支援を意識している。その際の記載姿勢として子どもにとって前向きな記述を心掛けている。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもが日々、成長していく様子は記録化し指導計画に生かしている 児童票や入園面接時に保護者から得た情報や入園後、保育の関りの中から子どもひとり一人の姿を把握している。把握した情報をもとに法人が規定する様式「保育指導概要記録」へ乳児は毎月、1歳児以上は4半期ごとに、発達の状況、成長に保育士として関わる事を詳細に振り返り記録している。この保育概要記録様式はアセスメントとしての側面を持ち、成長の過程が捉えやすい内容である。また、その日ごとの子どもの様子や保護者からの要望等はクラスノートに記載し、場合により毎日の昼礼で職員間の共有を図る。 指導計画は、統一した保育士の視点から評価・反省し次に生かすよう努めている 毎月の指導計画は、年度末に法人が示す保育理念・方針・目標、さらに0歳児から5歳児までの具体的な保育目標、法人が大切にしていること、小学校入学までに獲得してほしいことさらに、保育士の振り返りの視点を表にまとめた「こうほうえん保育・ベーシックガイド」(全体的な計画)をベースに、年齢別の年間計画の具現化を目標に立案される。立案に際し、クラス担当保育士は、週末・月末に評価・反省し次に繋げ、園長・副園長の承認を受け職員会議で全職員と共有する仕組みである。なお、月案・週案はクラスに貼りだし保護者への周知を図る。 課題のある子どもへの対応は園全体で取り組んでいる 子どもや保護者の状況について、クラス担任間で常に話し合いがもたれており保護者の勤務体制の変化などは、児童票に記載し職員間で共有する。課題ある子どもへの対応についてクラス会議で話し合っている。しかし解決が難しい場合は、園長・副園長に相談しながら、職員会議で検討する。さらに巡回心理士から見た、子どもの状況についての詳細な記録から、知り得た子どもの新たな一面を生かし、子どもが豊かな園生活を送れるよう支援している。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
子ども、保護者の個人情報利用の際は同意を得た範囲にとどめることを徹底させている 子どもや保護者の個人情報の重要性に鑑み、法人のプライバシーポリシー、個人情報保護に関する法令・ガイドラインを順守し、利用は承諾を得た範囲とすることを、「入園のしおり」に記載、さらに別紙で「個人情報承諾書」に同意サインを得ている。子どもの園生活の様子などICT化に、伴い拡散しないよう、保護者ごとにアカウントを設定するなど肖像権にも配慮している。また、児童票等の個人情報満載の重要書類は職員室の書庫に保管しており、個人名が記載された文書類はシュレッダー処理をする。新人職員は個人情報保護の重要性を研修で学んでいる。 子どもが持つ羞恥心へ配慮した保育を心がけている 子どもの尊厳を守る意味からも羞恥心に配慮した保育を心がけている。例えばおむつ交換は他児の目に入らない場所で行い。排泄に失敗した場合はさりげなく処理をする。看護師は水遊びの始まりを良い機会として、プライベートゾーンを話題に取り上げ、子どもが自身の体に関心を持てるよう配慮する。また、衣服の着脱について例えば、上着を脱いだら上着をという具合に全裸にならない方法が身につくよう指導する。さらにお遊戯や工作など、上手いかなかったことを恥ずかしく思っている子どもへ、保育士はさりげなく寄り添い励ましの声掛けをする。 不適切な保育ゼロを目指し様々な工夫をしている 日常的に保育士は担当の子どもを中心に、成長の様子を見守り、子どもへの権利侵害を戒めるため法人が定めた「不適切保育ゼロ宣言」の3か条を昼礼時に読み合わせ、さらに「チェックリスト」で自省の機会を持っている。園長は職員間で互いに言い合える職場環境が理想としながら、現状は至っていないと述べている。また虐待を疑わせる事例に遭遇した際は、一先ず園長に報告するよう全職員へ徹底させたいとしている。虐待防止や育児困難家庭への支援について内外の研修に職員を参加させ、職員会議での伝達研修で全職員への周知を図る。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
○あり ●なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
保育業務に必要と思われる手順書を用意しているが不足感がある 運営法人はISO規格のもと、園生活に必要と思われる手順書を「文書管理台帳」に収納している。ただし、当園においては、安全面から施設・解錠、事故発生時、安全計画、アレルギー緊急時等のほか、日々の保育実践上からは与薬・喫食・散歩・沐浴等にとどまっている。新人職員は日々の保育を中心とした業務についてエルダーよりOJTで学ぶ。各クラスはリーダーを中心に纏まり、保育観の一致・保育者としてあるべき姿を「こうほうえん保育・教育ベーシックガイド」より得ている。		
マニュアル類の見直しにあたり決まったルールは持っていない 支援の基本事項や手順の変更の時期は特に定めておらず、職員等の意見により、随時見直す方針である。今年度は週1度の職員会議開催をより情報の共有化を目指し、午睡時間を利用して毎日の昼礼に変更、また、おむつのサブスクリプション導入で保護者の負担軽減に繋いでいる。さらに行事後に実施する保護者のアンケートから、「バス遠足」のマニュアルを職員会議で見直している。園長は、職員会議等において全職員が自由に発言しやすい雰囲気づくりが必要と述べている。		
リーダー層を軸に保育は適切に実施されているがさらにマニュアル類の整備に期待する 園長、副園長、主任等、ベテラン保育士を中心に、クラスごとにまとまり、保育目標の達成に向け適切な支援(子ども・保護者)が実践されている。ただし、子どもの日々の様子を記録に残す際の内容や保護者面談のあり方、障害のある子どもへの接し方(介助方法)や、指導計画作成の具体的手順等、標準化に向けまた、保育水準の向上に園にあった支援内容を具体的に示す必要がある。全職員が支援の一つ一つに共通認識を持つための「見ればわかる」手順書の作成に期待する。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもの全体的な姿を把握しながら、子どもが自ら選んで遊べる環境の整備に努めている 法人保育理念に「一人ひとりの発達と個性を大切に、生きる根っこを育みます」と定め、子どもの全体的な姿を「児童票」「面接シート」「入園時食事面接表」等から把握している。園の特色を「主体的に遊べる子ども」として、年齢別の指導計画のもと、子どもの遊びは子どもが自ら選んで遊べるよう手の届くところに置くなど、より良い保育環境の整備に努めている。園舎内(玩具、遊具、教材等)や園庭(砂場、栽培、自然観察、運動遊び等)は、子どもの興味や発達を考慮するとともに、玩具・絵本等も季節に応じて入れ替えを行いながら整えている。 職員は、適切に保育ができるよう研修に参加して理解を深めている 当園の保育形態は、基本的には乳児(0～2歳児)、幼児(3～5歳児)の年齢別の保育であるが、朝夕の延長保育や自由遊びの時間帯には異年齢児が関わって遊んでいる。特別な配慮が必要な子どもについては、加配職員を配置し、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している。また、職員は適切に保育ができるよう研修に参加して理解を深めるとともに、保護者、病院、自治体の巡回指導員と連携して対応を話し合っている。さらに、保育中の気になる子ども等については、同法人の児童発達支援事業所の職員と連携し話し合いを開始している。 小学校の行事に参加したり交流を楽しみながら、スムーズな入学に対応している 5歳児の小学校への円滑な接続については、全体的な計画にも定め、入学に期待を持たせる教育・保育内容としている。近隣保育園が集まり5歳児の就学前交流を行ったり、当園のホールを使用し連携園との合同研修会を開催している。近隣小学校を訪問し、小学校の行事に参加して1年生との交流を楽しむなど、積極的な小学校との連携を図っている。入学後に使用するランチョンマットや上履きの練習も行っている。保護者に対しては小学校を見学しておくことを勧めたり、入学後を見据えて生活リズムを整えることの大切さを伝えている。			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		☐ 非該当
評価項目2の講評			
登園時は子どもの健康状態の観察を行い「伝達表」に記載し保育に活かしている 登園時は、子どもの健康状態の観察(視診)を行っている。家庭での子どもの様子は、口頭での保護者とのやり取りや連絡帳などから把握する。把握した内容は、「伝達表」に記載し、職員間で共有し保育に活かしている。さらに、乳児(0,1,2歳児)クラスは、保育の業務支援ツール内の連絡帳機能を使って、家庭での子どもの様子、園での活動の様子を保護者と共有する。食事、睡眠、排泄等についての情報も家庭と園が記載し合っており、保育に活用している。園だより、クラスだより等も業務支援ツールで配信するとともに、玄関横の掲示板に掲示している。 発達段階に応じたねらいを定め、主体的に行動できるような保育環境の整備に努めている 基本的な生活習慣の獲得については、指導計画で発達段階に応じたねらいを定めている。乳児では、一人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たしながら、生活リズムが形成されるよう促し、定着を援助している。幼児では、例えば手を洗いたくなるような手洗い場の工夫など、自ら行えるよう促しながら主体的に行動できるよう保育環境の整備に努めている。また、子どもの生活習慣の重要性については、保護者にも看護師・栄養士から全体保護者会や送迎時に専門的な立場から話をするなど、折に触れて伝え、家庭と連携して子どもが身に付くよう援助している。 家庭との情報交換を密に行いながら、保護者と連携した保育に努めている 休息(お昼寝含む)は、連絡帳を活用して家庭との情報交換を密に行いながら、一人ひとりの生理的欲求、健康状態に合わせて配慮を行っている。年長児については、就学に向け9月から昼寝を行っていない。乳児では、子ども一人ひとりの1日の状況をお迎えの際口頭で伝えたとともに、保育の業務支援ツールを活用して連絡帳でも配信している。幼児については、クラスの様子を配信している。朝の合同保育の受け入れ時に、前日の子どもの様子の伝達が徹底されていないこともあったため、今後は伝達及び記入漏れをなくしていきたいとしている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがぎまみの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		☐ 非該当
評価項目3の講評			
子どもが主体的に遊べる事を大切に、より良い保育環境の整備に努めている 園の特色の一つに「主体的に遊べる子どもを目標に、遊びを展開しながら」としている。子ども達の興味や発達、又行事や季節に合わせて、絵本や玩具の入れ替えを適宜行いながら、より良い保育環境の整備に努めている。幼児クラスでは、可動式のワゴンに製作材料を用意し、子どもがイメージしたものを自由に表現できる。レゴやパズルなど机上で遊ぶ玩具は、自由に手に取って遊べる位置に、大きな玩具のカプラ、積み木、ブロックなどはおもちゃ倉庫に置き、子どもが自分の興味・関心に合わせて玩具を選び、自由に出し入れできる環境を整えている。 子どもが表現を楽しめるような工夫に努め、遊びが豊かに展開されるよう取り組んでいる 幼児クラスでは、外部専門講師による造形・運動・英語の保育活動を行っている。保育士の学びを深めながら、子どもが様々な表現を楽しめるような工夫に努め、子どもの遊びが豊かに展開されるよう取り組んでいる。4歳児クラスの造形では、園庭のキウイフルーツの葉を使い、1人ずつ「葉脈の擦り出し」を行っていた。完成すると作品に名前をつけて、皆の前で手を挙げて発表し、応答的な関わりを大切にしながら、言葉に対する感覚も養えるよう配慮していた。自分の考えを伝え、相手の話を聞こうとする態度が身に付く取組にも繋がっている。 季節を感じられる園庭で、子どもが遊び込める環境の配慮をしている 全保育室は、テラスがついて園庭に面し、子どもは園庭専用の靴を履いてすぐに園庭に出られる。園庭には、ビワ、レモン、キウイ、サクランボなどの実のなる木が植えられ、季節の移り変わりを感じとれる。訪問した10月は、青い(緑の)レモンがたくさん実っていた。ままごと、タイヤ、砂場、フープなどを使って異年齢で関わりながら十分に身体を動かして遊ぶ環境が整えられている。夏の暑さに備え新しく「日除け」を設置して、子どもが直射日光に当たらないで快適に遊ぶよう配慮をしていた。また、砂場の砂を入れ替えるなどして、衛生に努めている。			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当											
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当											
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当											
	評価項目4の講評 行事は、日常の保育の延長線上で子どもの負担にならない楽しめるものとしている 行事については、子どもの負担にならないよう発達に合わせてねらいを定め、日常の保育の延長線上で子どもが楽しめるものと位置付けている。幼児クラス「夕涼み会」では、子どもの意見を取り入れながら年長児が計画・準備し他のクラスの子も達を楽しませ、達成感を持てるよう配慮をしている。行事を通して季節を感じたり、日本の伝統文化に触れたりする保育園ならではの活動を経験できるように努めている。遠足などを通して公共の場でのマナーを学んだり、世代間交流や地域交流などではその場にふさわしい言葉遣いなどが身につくよう配慮している。 みんなで協力しやり遂げることの喜びを味わえるよう工夫している 生活発表会では、興味や関心を持って自ら進んで取り組めるよう、子どもからやりたいことを聞き取り劇遊びに繋げている。行事や生活、遊びの様々な場面での「苦手の食べ物が食べられる」「跳び箱を跳べる」「たくさんの友だちと遊んだ」など発表して、頑張った喜びを分かち合い、みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるように工夫している。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、園の行事の際の保護者参加人数を「制限無し」としたことで、父母だけでなく祖父母や兄弟、地域住民も参加できるようになり好評を得ている。 行事について、保護者には懇談会や業務支援ツールで説明し理解を求めている 乳児クラスは、「おとうさん、おかあさんといっしょ」として、親子でふれあい遊びを中心にスキンシップをとりながら身体を動かして楽しんだ。幼児クラスは、「運動会」として、かけっこや遊戯を披露した。5歳児は、年齢別保育のねらいに「生活や遊びの中で一つの目標に向かい、力を合わせて活動し、達成感や充実感を皆で味わう」を掲げ、取り組んでいる。年度の初めと終わりに全体保護者会、クラス懇談会を開き、保育の内容を大まかに伝えているとともに、年間行事予定表は、年度初めに保育の業務支援ツールで保護者に送信し理解を求めている。												
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当			
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当											
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当											
	評価項目5の講評 「全体的な計画」に保護者の就労支援を位置付け、家庭的でゆったりとした環境に努める 当園の開園時間は7時20分～20時、延長保育時間は開園～7時29分、18時31分～閉園までとしている。「全体的な計画」に長時間保育を位置付け、保護者の就労支援を行い、家庭的でゆったりとした環境に努めている。現状は、異年齢児3～5歳児の3名前後が毎日利用し、希望者には夕食を提供している。保育に入る子どもは、各クラスの伝達表、睡眠チェック表や連絡帳で延長保育担当者に引き継がれる。担任以外の複数の職員が担当することとなるため、子ども一人ひとりの状態(視診等)について改めて確認し確実な情報伝達に努めている。 延長保育でしか遊べない玩具を用意し、ゆったりとした環境のもと保育に取り組んでいる 延長保育でしか遊べない玩具や小集団で遊べるゲームができるよう用意し、迎えを待つ間も楽しめるようにしている。マットやゴザを敷き、子どもが安心して穏やかに過ごせるよう配慮しながら、家庭的でゆったりとした環境のもと保育に取り組んでいる。保育の状況は延長保育日誌に記載され、翌日出勤の職員に引き継がれる。年末保育(12月29日～31日)に関しては、両親ともに就労の人を対象に実施している。なお、現在は遊戯室を遊び場としているが、利用幼児が少人数のため、今後は子どもが遊びたい部屋を選んで遊ぶよう検討したいとしている。												

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当																	
評価項目6の講評 落ち着いた雰囲気、子どもたちが楽しく食事をとれるように工夫している 給食目標に「☆色々な素材、料理の味を知る☆四季を感じる☆楽しさを知る☆マナーを知る」を掲げ、楽しめる食事やおやつを子どもに提供している。管理栄養士が献立を立て、一日の食事摂取基準の42～50%が摂取できるよう努めている。次月の献立表は月末に業務支援システムで保護者に配信する。離乳食は、子どもの発達段階に応じて各月齢に合わせた食材チェックリストを進めている。0歳児室では、保育者は極力動き回らず介助に努め、準備ができた子どもから挨拶をして食べ始めるなど落ち着いて食事がとれるよう雰囲気作りに配慮している。 子どもの喫食状況を話し合っ共有し、献立等の改善につなげている 栄養士は、保育室を巡回して子どもの食事の様子を把握している。月1回給食会議を開き、栄養士、園長、各クラス担任、調理担当者(委託業者)が集まり、子どもの喫食状況を話し合い共有している。話し合いの内容は、献立等の改善につなげている。食材は国産のものにこだわり、おやつも手作りで自園調理している。出汁を効かせて薄味を基本とし、乳児の味付けは塩分濃度をさらに薄味としている。食物アレルギーを持つ子どもについては、医師の診断に基づいた「生活管理指導票」を使って、栄養士と看護師が保護者と面談を実施し対応している。 野菜の水分量を知るなど、食について関心を深める取り組みを行っている 園庭のプランターに夏野菜などを植え水やりをしたり、高齢者施設の利用者といっしょに、野菜の栽培活動を行っている。収穫を楽しんだ後は、トウモロコシの皮むきやピーマン、ゴーヤの種取りをして給食の材料に加えてもらいみんなで食べたり、野菜の切れ端でスタンプをしたり冬瓜抱っこをしたりして楽しんでいる。キュウリに塩をかけてしぼり、キュウリの中にはどのくらい水分が含まれているのかなど、食について関心を深める取り組みも行っている。さらに、好き嫌いの多い子どもに対して、食に興味を持たせることが今後の課題としている。																			
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当						
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当																	
評価項目7の講評 園医は、月3回来園して0歳児の子ども健康を見守っている 看護師は、全クラスを毎朝巡回して子どもの視診を行い、健康状態を把握して活動日誌に記録する。保育中の体調不良やけが等については、保育者が保護者に伝えとともに、看護師が同席して、経過、処置、今後注意が必要なことなどを直接伝えている。0歳児は、毎月3回園医が来園して健診を行うことにより、子どもの体調変化に迅速に対応できるようきめ細やかな健康管理に努めている。1～5歳児の定期健診は、春と秋の2回、歯科検診は2回、身体測定は毎月全行い、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行なっている。 看護師は、年間保健指導計画を立案し、子どもに健康や安全について伝えている 看護師は、年間保健指導計画を立案し、職員会議で承認を得て取り組みを進めている。毎月、看護師による「健康の話」を通して、健康に過ごすことの大切さを子ども達に伝えている。例えば、「安全教育」「感染症対策としての手洗いうがいの話」である。またプール活動が近くなると、「プライベートゾーン」についての話をし、全裸にならない、ラップタオルを使って着替えるなど、羞恥心について伝えている。毎月「ほけん便り」を発行し、保護者に向けて「子どもの鼻のトラブル」での対処方法や「子どもがしやすい怪我の応急手当」の方法を伝えている。 医療的なケアを要する子どもの健康状況を把握するとともに、職員研修も実施している 全園児の健康状態は、看護師が把握するとともに、医療的なケアが必要な子どもにたいしては、保護者といっしょに関係機関を訪問している。園で対応が必要な場合は、嘱託医との連携がとれるようにしている。睡眠時の呼吸状態は定期的に観察し、SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防に努め、0歳児は5分ごと、1・2歳児は10分ごと、幼児クラスも適宜確認している。また、ほけん便りにてSIDSの危険性を保護者にも伝え、注意喚起を図っている。職員に対しては、AEDの使用法やアレルギーやけがの対応など、基本的な研修を実施している。																			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当		
評価	標準項目																				
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																			
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																			
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																			
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																			
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当																			
評価項目8の講評																					
「一日保育士体験」により、保護者の養育力向上につなげている 保護者の就労や子育ての事情は、児童票、連絡帳、登降園時の保護者との対話などから把握し、できるだけ柔軟な支援を心がけている。急な仕事のための時間延長、土曜日保育、保護者の体調不良の場合などにも柔軟に対応し、16:30までの申し込みにより夕食の提供を行っている。両親ともに仕事の人を対象として、12月29～31日に年末保育を行っている。保護者に、子どもと一緒に給食も食べる「一日保育士体験」をしてもらうことで、保育活動や子ども達の対応について理解を得ることができるとともに、保護者の養育力向上につなげている。 子どもの保育の状況を保護者に伝えて共通認識を得、信頼関係構築に努めている 保育の業務支援ツール(ICT化)を活用して、乳児クラスは連絡帳、幼児クラスはドキュメンテーションにより子ども達の保育活動の様子をつたえ、保護者との共通認識を得る取組みとなっている。また、園児の登降園の管理、身体測定の結果、えんだより、クラスだより、行事のお知らせ等もICT化を行い、情報をきちんと伝えることで保護者との連携がスムーズに進むなど、信頼関係が深まる取組みにつながっている。保護者の負担軽減のため、0歳・1歳児クラスの希望者に紙おむつのサブスクサービスを開始し、好評を得ている。 懇談会や運動会、生活発表会など、保護者同士が交流できる機会を設けている 保護者同士の交流については、年度の初めと終わりに園全体懇談会とクラス懇談会を実施する他、運動会、生活発表会、敬老会など、保護者同士が交流できる機会を設けている。保護者が参加する行事については、感染症防止に気を配りながらも、人数を制限することなく行っている。長く続いた父母の会が活動中止となり、行事の手伝い等のお願いがしづらくなってしまった。今後は、行事準備のためのお手伝いの公募などをして、保護者の負担感を無くしながらも、保護者同士が交流できる機会をさらに図っていきたいとしている。																					
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当											
評価	標準項目																				
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当																			
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当																			
評価項目9の講評																					
法人の理念のもと、地域と関わりながら友好的な関係づくりに取り組んでいる 法人の理念「地域に開かれ、一愛され、一信頼される」を基盤とし、地域との関わりを大切に保育を行っている。近隣保育園や小学校との交流、図書館の利用や警察署の「交通安全教室」など地域資源を活用している。高齢者施設が催す「いきいき祭り」に子どもが参加したり、「こどもの日の集い」にはお祝いに来てくれるなど高齢者と交流の機会を持っている。自治体主催の「打ち水大作戦」(プール遊びで残った水を再利用)に参加するなど、子どもが地域の一員として生活する機会を確保し、地域との友好的な関係づくりに取り組んでいる。 子どもが、様々な人々と交流する機会を確保している 課業(造形・英語・運動)で来園する外部専任講師、保育実習生、職場体験の小中学生や大学生ボランティアなどを受け入れ、子どもが様々な人々と交流する機会を確保している。子育て支援の「ケンケンひろば」や一時保育・給食体験では、育児相談や保護者同士の交流もできるなど、地域の子育て家庭の支援に努めている。高齢者施設と一緒に広報誌「西大井スタイル」を毎月発行し、近隣住民にも配付して、活動報告を行うとともに運動会や発表会、秋祭りなど園の行事への参加を呼びかけながら、近隣の理解を得る取組みにもつながっている。																					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル①	同一建物内にある子育てサービスを活用して入園準備を親子でできる	
内容①	本事業所と同一建物内にあり、廊下がつながっている、「ケンケン広場」は利用の予約も不必要で子供たちを自由に遊ばせることができる。ここでは看護師による講座や栄養士による離乳食講座などを開催するなど時期に応じたテーマで、親の育児不安の軽減に努めている。また利用に登録面談を行う「ほほえみルーム(一時保育)」は、本事業所がその窓口になって受付をしている。どちらのサービスも入園前に活用して親子ともに入園に備える準備ができるように運営されている。なお、このサービス利用によって本事業所への入園を決める保護者もいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう環境を生かした工夫をしている	
内容②	広い遊戯室を使用してリズム遊びをしたり、様々な楽器を演奏できるような環境を整えている。園庭とそれに隣接している地域のグラウンドは十分体を動かし、ボール遊びや、思い切り走れる遊びができる。これらの取り組みは本事業所の建物の広さや園庭やグラウンドといった環境を活用した取り組みである。また異年齢の子供同士の自然な交流としては、年長さんのクラスの子供が「お化け屋敷」を作って小さい子供を楽しませる企画にも工夫して取り組んでいる。この取り組みは年長クラスの子供には達成感を味わえる体験になっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	食育の推進に向けた取り組みを重視している	
内容③	栄養士が献立を作成し、昼食時は巡回して子供の食べる様子を観察している。献立は出汁を効かせ薄味で仕上げる、食材も国産のものを調達するよう努め手作りにしている。また調理の委託業者を交えて、各クラス担任が出席して行う給食会議を毎月開催している。子供たちは、野菜の皮むき、種取り、野菜の栽培、収穫などを行い、夏野菜などは調理室へもって行って調理師に渡し、それを給食の材料とするため、自分たちが育てた野菜のため喜んで食べている。これら一連の取り組みは、子供の食育につながるものとして重視している。	

No. 特に良いと思う点	
1	タイトル 法人の理念に基づいて「地域貢献」を重点的な取組みの一つに位置づけて諸活動を行い、昨年度からは新たに「誰でも食堂」を開催している
	内容 法人では「地域に開かれた」「地域に愛される」「地域に信頼される」ことを理念に掲げ、地域との共生や連携を事業展開の柱に位置付けている。当園では、その方針に則って事業計画の「重点的に取り組むこと」の一つに「地域貢献」を位置づけ、子育て支援、園周辺の清掃、町会活動（防災訓練など）への参加などの諸活動に取り組んでいる。昨年度からは、併設している高齢部門の事業所と共同で新たに毎月1回「誰でも食堂」を開き、小学生以上の子どもたちと高齢者（定員20名）に低料金で食事を提供している。
2	タイトル 「一時保育」や子育て支援の「ケンケン広場」への参加を呼びかけながら、在宅の子育て家庭を支援している
	内容 法人の理念のもと、「地域との共生」「地域との連携」を事業の柱としている。ホームページやSNS、広報誌「西大井スタイル」から、地域に向けて園の地域事業の紹介や参加を呼び掛けている。「一時保育」は、就学前までの子どもを昼食・おやつ・オムツ無料で理由を問わず預けられる。子育て支援の「ケンケン広場」は、予約無しで親子で参加可能とし、子育て講座・給食体験・園児と一緒に遊ぶ会など在宅の子育て家庭を支援している。未就園児を持つ子育て世帯に少しずつ知られるようになったことから、参加を通して入園への興味につながっている。
3	タイトル 世代間交流を復活させて、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるとともに、礼儀が身に付く取組みに繋がっている
	内容 自粛していた世代間交流を復活させた。同じ建物内に高齢者施設があり、その利点を生かした世代間交流の取り組みを行っている。保育行事の度に高齢者施設を訪問し、お遊戯や太鼓などを披露して高齢者に喜んでもらうなど交流する機会を持っている。また、猛暑で幼児用プールの使用ができなかったときは、高齢者施設の大浴場を借りプールごっこを楽しんだ。それをきっかけとして、子どもが自ら挨拶をするようになり、感謝の気持ちを伝える力が身に付くなど、複合施設の強みを活かし、子どもの生活や遊びが豊かに展開される取組みに繋がっている。
No. さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル 当園の事業活動に関する計画策定、その進捗管理、事後の検証、に関する取組みは十分とは言えず、PDCAサイクルの確立が求められる
	内容 当園はISOや組織的な目標管理など、法人が整備したしくみや体制のもとで事業展開している。しかし、当園の事業活動に関する計画策定、その進捗管理、事後の検証、に関する取組みは十分とは言えない。それは例えば、部門年度目標書式や事業計画の策定過程において職員参加の機会が明確に位置づけられていないこと、業務の役割分担は定めているが進捗管理はベテラン職員の経験に負っている側面が大きいこと、ICT化が想定どおりに進まないこと、などからうかがえる。計画的な事業展開のためのしくみを整備し、PDCAサイクルの確立が求められる。
2	タイトル 組織活動や保育の質の向上に向けた工夫に努めているが、非常勤職員に対する適切な情報提供や学びの機会の提供という面で課題がある
	内容 園内の情報共有の充実のために職員会議に代えて昼礼を位置付けたり、園内研修の機会を確保するために行事終了後の時間を研修に充てたり、保育士チェックリストを定期的実施するなど、組織活動や保育の質の向上に向けた工夫に努めている。しかし、結果的に非常勤職員に対する適切な情報提供や学びの機会の提供という面で課題が残っている。昼礼での「報連相」が全職員に行き届かないことは当園でも課題としている。非常勤職員に期待するものを明確にしつつ、必要とする情報の伝達や研修の機会充実に向け、様々な方法や機会の工夫が求められる。
3	タイトル 園独自の環境を生かした手順書の作成等、保育の標準化に期待する
	内容 当園では法人が作成している「こうほうえん保育・ベーシックガイド」により、年齢別に子どものあるべき姿を描き、加えて職員の自省の視点を明確にしている。一方、保育現場で必要と思われるマニュアル類は、法人作成の「文書管理台帳」に収納されている沐浴・散歩・与薬・喫食のみである。0歳児から5歳児まで成長の幅がある子どもの保育にあたっては全体的に手順書が不足している。全職員が一致した保育観で支援にあたるためにも保育の場面ごとに手順書が必要とされる。また手順書類の作成にあたり常に見直しの方針で臨むよう期待する。